

次世代都市交通WGでの議論要旨

「内1⑧歩行者移動支援システムの共通基盤研究」について

討 議 論 点	○平成28年度の研究施策の受託者説明（第38回次世代都市交通WG）自動運転車と協調して交通事故を削減することを目的に、歩行者の安全、安心な移動を支援するシステムの研究開発を実施している。 ○昨年度はシステム構築に必要なデータを整理し、3名の歩行制約者による簡易な移動支援試験を行った。本年度はプローブ方式による必要データの収集、実地図データを作成、歩行制約者の対象を拡大して、システム構築と実証をさらに進める。 ○本研究の受託者が日立製作所、ナビタイムジャパン、ゼンリン殿に決定した。 ○平成28年度の実施内容、日程について受託者説明があり、以下実施項目について、討議した。 1. ART計画路線でのデータ、および評価用歩行ナビアプリを作成し、実地検証を行う。 2. 必要なデータを収集するアプリ試作、データの提供方法検討 3. ART、PICS、歩行者端末の研究施策との連携仕様を検討 4. システムの受容性評価
WGの 主 な 議 論	○移動支援に必要なデータ（高さ方向）、リンクコストについて歩道橋、階層構造が複雑な駅などでの情報を分類し、提示をわかり易く行えるとよい。階数によらずシームレスな地図を使用し、上下方向移動時のリンクコストの違いも踏まえた各制約者に適した案内を検討していく。 ○移動支援する上での各事業者の受容性、ミッシングリンク駅構内などでのスマートフォンナビによる案内、民地も含んだ経路案内の実現性検討、事業者情報の共通基盤データ化の方法検討が必要である。 ○ART情報センター研究施策との連携についてART計画路線での歩行者移動支援を検討する上で、一貫したサービスとなるように本施策との重複のない連携を考える。 ○研究施策全般 各研究施策との連携項目が多岐に渡るため、重複がないように、全体像を正確に描き、本施策での実施項目と他の事業との分担をわかり易くまとめる。